

あかねのトライで弁天堂は1トライを返したが、弁天堂 7・21 試衛館で前半戦は終了した。  
しかし、弁天堂のチームメートは皆傷んでいる。

風馬「なあに。左腕が動かなくても右腕があらあ」

土門「おう！！こんなもんツバつけときゃ治っちまうぜ」

そういえば、風馬と弁慶はそのままラグビー部に残ってくれたんだね。

ガラシアは、あかねを封じなければいつ逆転されてもおかしくないと、兜の緒を締めなおした。

ガラシア「ようし…後半戦開始と同時にあかねの息の根を止めるぞ！！」

ニイミックとセリーガル「イエッサー！」

そうだった。こいつらは、**試合中にあかねを殺すつもり**だったわけ。

あかねのキックオフで後半開始した。

密集のプレーの中で、ドサクサにまぎれて明は腹に**本気の膝蹴り**を入れられた。

明「あ…が…」

明は意識を失った。

病院では、入院中の南郷が TV 観戦をしながら声を張り上げていた。

南郷「ああーっダメだ！！あかねつつこむなー！！」

看護師さんに怒られてしまった。

南郷「奴らは必ずあかねをつぶしに来る…ニイミックのサイドアタックはあかねを引きつけるオトリだ。あかねがタックルに来た所を 3 人で同時に攻撃するつもりだ。あの三身一体の攻撃を受けたら、あかねの華奢な体はひとたまりもねえ…」

南郷の予想通りだった。

球を持ったニイミックにあかねがタックルしにこうとすると、ニイミックはすぐ背後のガラシアへパス。ガラシアは空中高く飛び上がってあかねを超えていく。あかねは勢いそのままニイミックにぶつかりにいてしまうが、ここでニイミックの**膝蹴り**が腹に入ってしまう。ニイミックのすぐ横にいたセリーガルが、呻くあかねの首をしめながら、地面に叩きつけた！

あかね「が…は…！！」

**あかねは死亡した。あっさり簡単に言うけど、また死亡しました。はい。**

その間に、ガラシアがトライ。試衛館が弁天堂を突き放した。

あかねと早池峰が倒れたまま起き上がらない。明は気を失っていただけだが、あかねは息をしていない。場内は騒然とした。

勇二「あ、あれっ。なんで体を抜け出しちまったんだ！？も、もしかしてさっきのショックで…俺また死んじゃったのかよ！？」

勇二はまた幽霊体となってしまった。

ガラシア「ふふ…一瞬で息の根を止めるセリーガルの傭兵護身術から起き上がった者は、

未だかつていない。It's a perfect !」

くしくも幽体離脱していた勇二は、このガラシアの言葉を聞き、小細工の実情を知ることができた。

あかねの体はタンカで運ばれていく。

勇二「おっと、退場させられる前に戻りなくちゃ！」

勇二は再び、体に飛び込んだ。…って、そういうもんなの？セリーガルの技で呼吸停止にまで追い込まれたということは、気絶ではなくて何か致命的な体の損傷がおきたということでしょう？そしたら、いくら魂が体に戻ったからといって生き返るのはダメでは…。

まあ、ウィングステップの性能からしてあかねは既に人外のモノだから、ゾンビみたいなものとするのが正しいのかもしれない。

あと余談だが、こういうタイミングでは必ず出てくる爺さんが、今回は出てこなかったも気になる（笑）

あかねを消し、あとはガラクタ（いや、それは弁慶に失礼）だと楽勝を確信する傭兵選手達だったが、

あかね「さア、そいつはどうかなア？」

そこには、立ち上がったあかねと早池峰がいた。ちなみに、明は先の気絶を通じて、本来の早池峰の意識に入れ替わるという戦闘力グレードアップのオマケつきだ。

あかね「こちらいっぺん死んでんだ！へたな小細工しねえで、正々堂々とぶつかって来やがれ！！」

ガラシア「た、確かに奴の呼吸は停止していたはず…あいつらはいったい何者！？」

ホントそうですよね。ただ、これであかねが無事なのだから、ガラシアが花束の下から銃撃していたとしても、あかねを抹殺することはできなかったということになります。

これ以上点差を離されると苦しい弁天堂だったが、不死身のあかねの闘志が、流れを大きく引き寄せた！

陣地は弁天堂側 22m ライン内で不利な状況。六角がボールを持った。だが、前方には試衛館ディフェンスが立ちふさがる。

このままでは簡単に潰されてしまうと思った六角が奇想天外なプレーをみせた。自軍ゴールに向かって逆走していき…



さすが元体操選手らしいプレーで大勢の敵を一気に抜き去り、一気に独走トライ！すごいで、次郎！

次のチャンスでは、あかねがウィングステップ・・・とみせかけて、風馬にパス！絶妙にディフェンスラインを突破し、圧倒的なスピードでトライ！

そして、極めつけは、あかね自身のウィングステップでトライ！

弁天堂は、瞬く間に同点に追いつくことに成功した！

ニイミック「あいつらどんなに攻めても、奇抜な戦法でかわして来やがる・・・俺らプロの傭兵も顔負けだぜ」

ガラシア「・・・」

窮地に追い込まれたガラシアは、再び回想していた。

1995年10月のサラエボ。ガラシアは細川忠興と一緒に戦っている。戦況は不利だ。細川は撤退を指示したが、ガラシアは死んでもサラエボは守ると聞いて聞こうとしなかった。

細川「ガラシア！」

細川はガラシアの肩を強く掴んで彼女を引き寄せると、キスをした。戦場のキスだ。

細川「キャリーバッグだ、ガラシア」

ガラシア「キャリーバッグ・・・」

細川「そうだ。一時退いて再起をはかるのも戦法のひとつだ。ガラシア、お前は戦場にいるよりもラグビーをやっている時のほうが似合ってるよ。戦争が終わったら日本へいっしょに行こう。退屈な国だが、お前の好きなラグビーは自由にできる国だ」

ガラシア「忠興といっしょに日本に・・・」

だが、次の瞬間、敵の爆撃を受けてしまった。細川はガラシアを突き飛ばしたため、彼女は助かったが、細川自身は死んでしまった。

細川忠興は茶毘に付された。燃えて朽ちていく恋人を見つめ続けるガラシア。

ニイミック「ガラシア。たった今、和平調停が締結したそうさ。これでこの紛争も終結さ」  
ガラシア「なにィ！？冗談じゃない！上の連中は適当な所で、はいお終い、明日からはお友達・・・で済むかもしれないが、これまで奴らに殺された仲間や家族はどうするんだ！？生き返るわけじゃないんだぞ・・・私は決して忘れない。私から愛する全ての者を奪った奴らを！！」

ガラシアは燃えて炭と化した木をつかみ、これを嘔み潰しながら叫んだ。

ガラシア「私の戦争は終わっていない！忠興が私の血となり肉となって、いつかセルビアを皆殺しにするその日までは・・・！！私はたった今から女を捨てる！復讐の鬼と化し、忠興の故郷・日本で傭兵を集めて、またセルビアと戦ってやる！」

シーンは再びラグビー場に戻った。

ガラシア「私は負けない・・・負けるわけにはいかないんだ。私の中の忠興がそれを許さないんだ。優勝すれば大学からばく大な金が手に入る！！その金で優秀な傭兵を備ってボスニアへ帰るんだ！！」



ガラシアは闘争本能をむき出しにして、ボールをもってあかねに突進してきた。

試衛館大学も、そんなにばく大な金があるなら、普通に優れたラグビー選手をリクルートする裏金に使えばよかったのに。

細川の死という回想を経て、決意を新たに傭兵選手達があかねに突っ込む。ガラシアに、ニイミックとセリーガルもついてきている。

南郷「ま、また三身一体の攻撃だ！つつこむな、あかね！！」

南郷は病室でTVに向かって叫ぶ。

あかねと衝突する直前、ニイミックは背後に回ったガラシアに球を渡し、ガラシアがジャンプ。先ほどは、ニイミックに蹴りを入れられセリーガルに首をしめられ、ガラシアにはトライを決められてしまったわけだが…今回は、あかねも跳んだ！

あかね「二度も同じ手を食うか！」

あかねはドンピシャでガラシアに空中タックルを食らわせることに成功した。

しかも、あかねの背後には、早池峰が。あかねが飛んだことに一瞬たじろいだニイミックとセリーガルを押し戻す、強烈なタックルをした。この二人はボールをもっていないので、オブストラクションの反則だ。しかし、これによってあかねが残り二人に攻撃されてしまうことを防いだのだ。三身一体の攻撃を封じた！

本来の魔王・早池峰がラグビーで活躍する非常に数少ないシーンの一つなので、見逃さないでおこう。

南郷「よっしゃー！」

早池峰「へっへへ…この俺様を復活させたのが、てめえらの誤算だったな」

試衛館のペナルティゴールが決まり、弁天堂 28-31 試衛館と、わずかに試衛館がリード。

次のプレーで、あかねがボールを持った。ウィングステップが炸裂。一気にニイミックとセリーガルを抜き去る。

場内はあかねコールが巻き起こっている。

あかね「これで逆転だー！」

ガラシア「なめるな。私に同じ技は二度も通用せん！」



ガラシアは、自分も直角に跳び、いまだかつて誰も止められなかった必殺技・ウィングステップを止めることに成功した。

あかね「うそ…」

だが、あかねは落胆するどころか、純粋に興奮していた。

あかね「す…すげえよ、ガラシア！俺が一月間、必死に特訓して編み出した技を…マジですげえ！！」

あかねはガラシアの両肩をもって言った。

あかね「ちくしょう、惜しいよ。そんなすげえ奴が、なんで今までさんざん汚え手を使っ  
てんだよ！？正々堂々とまともなラグビーで戦えたら、さぞ密度の濃い充実した試合がで  
きたんだよ…！」

あかねは去ったが、残されたガラシアは身震いした。

ガラシア「な、なんだこの感覚は…そうだ…かつてボスニアで純粋にラグビーに熱中し  
ていた時と同じ感覚だ…」

ガラシアは、ラグビーを楽しむという感覚を、あかねとのハイレベルな争いの中で思い出  
したのだった。

ちょうどそこへ、何台ものパトカーと警官達がサイレンを鳴らしながら場内に入ってきた。

警察「やめやめー！試合は中止だー！」

試衛館の松平監督は連行されていく。

ニイミック「ふ…どうやらこれまでのようだな…」

試合は無効試合となり、弁天堂大学の優勝が自動的に決定された旨がアナウンスされた。

あかね「なっ…なにイッ！？なんの冗談だ、そりゃあ！？」

風馬「よかったじゃねえか。俺達の優勝だっていうんだから」

あかね「ばかたれっ。そーゆー問題じゃねーだろ！」

柴田が現れてあかね達に事情を説明した。通報したのは柴田自身で、一連の事件が試衛館  
の外人選手 3 人組の凶行であったことの裏付けがとれたこと、外人選手達が松平監督に雇  
われたボスニアの傭兵であることを説明した。逃げられないために、試合中に乗り込んで  
きたのだという。

だが、あかねの反応は予想外だった。

あかね「いや、俺がわかったのは奴らが何者かということだけだ。だが、それとこの試合  
は関係ねえ！柴田さん、試合中のこのグラウンド内は言ってみりゃ治外法権の場だ。何人  
であろうと試合を中断させることはできない！相手が殺人者だろうと傭兵だろうと、んな  
事ア関係ない。このグラウンド内では、皆同じラガーマンなんだよ。奴らを逮捕するなら、  
試合のあとにしてくれ。それまでは俺達が法律だ！！」

**昨年は、女性というだけで無効試合を宣告された側なのに、あかね（勇二）の包容力の大きさは驚きの一言だ。**

このあかねのアツイ言葉に、当局も動かされた。

刑事「いいでしょう。試合終了まであとわずかですし…」

あかねはガラシアの胸を叩きながら言った。

あかね「ガラシア、聞いての通りだ。残り時間はあとわずかだが、思いっきりやろうぜ！」

こうして試合が再開された。客席も大きな歓声を上げた。

ガラシア「あかね…お前は、なぜそんなにもラグビーにのめりこめるんだ！？お前の仲間をも傷つけ、お前さえも殺そうとした我々を許せるのか？私は…私は許せはしない。そう、いまだにセルビアの憎しみの呪縛から逃れられない私には…！しかし、それを許せるお前のラグビーとは…！？私も出来ることならすべてを許したい…憎しみの呪縛から逃れたい…」

ガラシアの頭の中に声が響いてきた。

「ガラシア…ガラシア…ガラシア！ガラシア、お前は戦場にいるよりもラグビーをやっている時の方が似合ってるよ」

ガラシア「忠興！」

試合のほうでは、弁大がスローインからのボールをゲット。あかねがパスを受けた。

ニイミック「どうせ試合が終ればつかまっちゃうんだ。ハデニ血まつりにしてやるぜ！」

ニイミックはパチンコを構えた。だが、ガラシアがセラミック糸をニイミックの腕に向けて放ち、これを止めた。その間にあかねがトライ！弁天堂 33-31 試衛館と逆転。

ガラシア「ニイミック、もう傭兵術はなしだ。これからは真正面から戦うんだ」

そう言うと、ガラシアはバンダナをはずして髪をおろし、胸を固定していたテーピングも取り払った。



そして、ガラシアも女性ラグビーであることが明るみにでた。そして、あかねは、それが試合前に花束をもって訪問してくれた外人女性と同一人物であることに気がついた。

ガラシア「あかね、私もアナタと真正面から戦ってみたくなった。一度は捨てた女性ラグーとして…傭兵ではなく、かつてのユーゴ代表のラグーマンとして戦ってみたくなった！」

ガラシアとあかねは微笑みあうのであった。